



# ひかりのこ

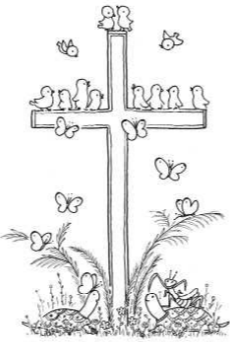
2024年度 **4月号**

日本キリスト教団

**名古屋新生教会 子どもの礼拝(CS)**

名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820

ホームページ: [名古屋新生教会](#)



昔からイースターが遅く(4月半ば)にやって来る年は桜の開花も遅い傾向があり、イースターが早い(3月下旬)年は桜の開花も早い傾向があると言われていたのですが、ここ数年はこの言い伝えもあまり当てにならないようです。今年のイースターは3月31日、名古屋の桜開花は平年より4日遅い3月28日でした。ちょうど入学式前後には満開を迎え、一番の見頃になりそうです。みなさんの新学期に彩りで祝福しているようですね。

2024年度が始まり、みなさんは1つずつ進級し、新たな学年になりました。小学校、中学校、高校、大学へと進んだお友だちもいますね。春は新たな出会いのときでもあります。新たな気持ちで、神さまとの出会いも大切にしましょう。

## 2024年度 子どもの礼拝 (CS = Children's Service)

✦ティーンズ礼拝(小4~中学生) 9:00~ ✦こどもれいはい(幼児~小3) 10:00~

・名古屋新生教会 牧師: 安達正樹 ・子どもの礼拝 代表: 武岡 基

今年のティーンズ礼拝では、礼拝への主体的な関わり方を重視していきます。これまでCSスタッフ(大人)が担当していた役割のうち、生徒(子ども)でもできる部分はみなさんにも担っていただきます。礼拝が受け身にならないよう、積極的に関わり、「みなさんによる礼拝」を大切にしてもらいたいと願っています。

## 今月の礼拝 単元9: イエスの教え②

📖...お話 🎵...奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生) 9:00~9:30	プレイ・タイム (小学生/中学生) 9:35~9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00~10:20
4月7日	種まきのたとえ	マタイによる福音書 13:1-23	📖 武岡 基 🎵 武岡路実		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
4月14日	赦された家来のたとえ	マタイによる福音書 18:21-35	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
4月21日	よいサマリア人のたとえ	ルカによる福音書 10:25-37	📖 安達正樹牧師 🎵 安達いづみ		📖 安達正樹牧師 🎵 安達いづみ
4月28日	愚かな金持ちのたとえ	ルカによる福音書 12:13-21	📖 武岡 基 🎵 安達いづみ		📖 安達いづみ 🎵

## ☆「ひかりのこ」復刊10周年! ☆

名古屋新生教会・子どもの礼拝(CS)だより「ひかりのこ」は、2000年代初め、当時の教会学校を担当されていた能登隆子先生の時代に発刊、不定期で発行され、その後はしばらく休刊が続いていました。現在の「ひかりのこ」を復刊したのは2014年4月号からですので、今年でちょうど10年を経ました。

その記念ということではありませんが、A3サイズにリニューアルしました。紙面の内容などは変わりありませんが、これまで小さめの文字だった部分を読みやすいように少し大きめにし、全体的にゆとりをもったレイアウトにしました。これからもぜひ読んでいただいて、子どもの礼拝(CS)の参考にしてください。

## 今月の聖句 (2023年度教会聖句)

へいわ じつげん ひとびと さいわ ひと かみ こよ  
平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5:9)

## 今月のさんびか♪

こどもさんびか 2 (きょうはひかりが)

3月の礼拝では、イースター(復活日)に向けてのイエスさまの歩みについて学んできました。イースターは、十字架にかけられて亡くなったイエスさまが、その3日目に復活したことを祝う「復活日・復活祭」です。

今月の礼拝では、イエスさまの教えとして「たとえ話」から学んでいきます。そのため、3月までの流れからの続きではなく、時間的に逆転しているのに勘違いしないようにしましょう。

今月のさんびかは「きょうはひかりが」です。『こどもさんびか改訂版』だけでなく、『讃美歌21』にも掲載されている(205)ので、子どもから大人まで、みんなで歌える賛美歌です。

作詞者はイギリスの牧師ジョン・エラートンさん(1826-93)です。ロンドンに生まれ、ケンブリッジ大学を卒業し、イギリス国教会の司祭になりました。彼が作った賛美歌はあまり多くはありませんが、現在も歌われ続けています。この詞はイギリスのイングランド北西部、ウェールズとの境に近いチェスターという都市に10世紀に創建されたチェスター大聖堂用として1867年に発表された賛美歌集に掲載されました。主日の意義とその喜びを歌っているこの歌は日本でも『讃美歌』(1954)で「今日はひかりを たまひし日なり」と従来から親しまれていましたが、『讃美歌21』(1997)において現在の口語訳に修正され、『こどもさんびか改訂版』(2002)にも収録されました。

作曲者は不明です。原曲は13世紀のフランスの聖歌であるという節、またヘンデルが作曲した賛美歌曲に似ているという節もありますが、詳細はわかりません。1850年に出版された音楽雑誌に掲載され、発表されました。曲名の INNOCENTS は、この曲が最初に発表された時に付けられていた歌詞が、Innocents' Day(12月28日、ヘロデの命令により殺された子どもたちを最初の殉教者として記念する日)のための賛美歌だったことに由来しています。

それぞれの節で主日(日曜日)は「光がつくられた日」「聖なる安息の日」「平和が満ちあふれる日」「み神に 共に祈る日」「主イエスのよみがえりの日」と、主日の大切さを歌い、だからこそ私たちは教会で礼拝を守ることを大切に、私たちがどのように生きるかを示しています。1節1節が短く、歌いやすいメロディーです。歌詞に登場する「〇〇の日」以外にも、日曜日がどのように大切な日なのかを考えて「今日は〇〇の日」と、それぞれで作詞してみるのもおもしろいですね。



## おたんじょうびおめでとう🎂

4月生まれのお友だち

### 「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう?教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、日本に住む多くの人々が持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇めて神さまを賛美する場ではありません。神さまを拝めば願いが叶うというものでもありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけていてくださるのです。これが「前奏」「招詞(招きの言葉)」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話」です。「説教」「お話」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰であっても、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福(祝祷)」「後奏」で終わるのです。